

腸管出血性大腸菌感染症O26の集団発生について

福岡市保健所管内において、令和7年9月13日に腸管出血性大腸菌感染症O26（VT1）の発生届出があり、福岡市内の保育施設の調査（検便）を行った結果、集団発生が確認されたためお知らせします。

1 発生状況

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
人数	0	1	3	1	0	2	7

2 主な症状：下痢、血便、軟便、腹痛、発熱

※重症者はおらず、全員快方に向かっている。

3 行政対応：患者及び家族並びに保育施設に対する健康調査、感染拡大防止の指導を実施。

4 原因：調査中

腸管出血性大腸菌感染症の福岡市への届出状況（令和7年9月25日現時点）

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
6	1	0	6	4	4	7	11	4	12	8	9	6	72
7	2	2	3	3	13	12	18	16	21	-	-	-	90

※本件を含む。

※腸管出血性大腸菌は、O157 が代表的ですが、他にO111、O26 などがあります。上の表はこれらの総数です。

【特記事項】

患者等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内での報道をお願いします。
本件に関するお問合せは、開庁時間内をお願いします。

【市政記者クラブの皆様へ】

例年、夏場を中心に腸管出血性大腸菌感染症（O157 等）が多数発生しています。

記者クラブ各位におかれては、次のことを市民の皆様にご呼びかけていただきますようお願いいたします。

- ・帰宅時、食事前、トイレ、おむつ交換のあとは石鹸と流水で十分に手を洗いましょう。
- ・調理するときは十分に加熱し、調理した食品は速やかに食べましょう。
- ・焼き肉の際など、生肉に触れた箸で食べないようにしましょう。
- ・包丁、まな板、布巾等は、よく洗った後、熱湯をかけるなどして消毒しましょう。
- ・浴槽は毎日洗い、浴槽につかる前は肛門部等を十分に洗いましょう。
- ・激しい腹痛、水様便、著しい血便などの症状があったら、すぐに病院で検査を受けましょう。
- ・高齢者や乳幼児の方は、症状が重くなりやすいので、感染予防に配慮し、感染が疑われた時は、すぐに医師の診察を受けるようにしましょう。